

社保庁の不当解雇を撤回せよ

北海道第2回口頭弁論 — 傍聴70人参加 越後さんが陳述 —

全厚生北海道の越後敏昭さんと高嶋厚志さんの分限免職処分取消裁判の第2回口頭弁論が5月14日、北海道地裁で開かれました。

傍聴席がいっぱいになった70人の支援者が見守るなか、原告の越後さんが意見を陳述。越後さんは、国民全体の利益のために仕事がしたいと考えて国家公務員になったこと、国として社会保険庁廃止を決定しておきながら、職員の分限免職回避努力が全くされていないこと、この不当・違法な分限免職処分を早急に取り消して欲しいことなどを切々と述べました。

口頭弁論終了後に開かれた報告集会で、全厚生北海道闘争団を支える会の名知隆之代表（北海道労連議長）は、「こんな不当な分限免職を放置すれば解雇の自由化を認めることとなる。広く職場や地域で広め、頑張ってたたかったいこう」と述べました。

大阪第2回口頭弁論 — 被告側が陳述 政府責任を回避 —

全厚生近畿支部大阪協議会の大島琢己さんの分限免職処分取消裁判の第2回口頭弁論が4月23日に大阪地裁で開かれ、傍聴席39席に対し48人が駆けつけ、法廷前の廊下に人があふれました。

口頭審理では、被告代理人が準備書面を陳述。被告代理人は、処分権者は大阪社会保険事務局長であるが、分限免職処分を回避するため可能な限りの努力を尽くしたので、裁量権の逸脱または乱用は認められないと述べました。そして、政府や厚生労働大臣の責任は本件の審理対象とならないとの立場を表明しました。また、社会保険庁廃止によって一旦すべての職員が分限免職処分の対象となりえる立場となって、大嶋さんは厚生労働省に転任されずに結果として分限免職処分になってしまったことから、いわゆる整理解雇4要件は適用されないなどと主張しました。報告集会では、弁護団が被告側の陳述を批判しました。



大嶋さん(右から2人目)と大阪弁護団

(記事：国公労新聞より転載)

解雇自由な社会を許さないためにも人事院で勝利判定を勝ち取る！

愛媛支援共闘会議が第3回定期総会を開催

「社保庁不当解雇撤回闘争支援愛媛共闘会議」は5月31日、松山市のコムズにおいて第3回定期総会を開催し、22労組・団体、67人が参加しました。主催者あいさつに立った海田支援共闘会議議長（愛媛県国公議長：写真）は、「社保庁職員への分限免職強行から2年5ヶ月が経過した。この間に、地方自治体でも分限免職事例が発生しており、民間でもJALの不当解雇に見られるように整理解雇4要件を全く無視した不当な解雇が横行し始めている。このような不当解雇を認めてしまえば日本は解雇自由な社会にされ、すべての労働者の働く権利がおびやかされる。解雇自由な社会を許さないためにも、人事院での勝利判定を勝ち取りたい。引き続きご支援をお願いします」と訴えました。



田福千秋愛媛労連議長と佐々木泉日本共産党愛媛県議会議員が連帯あいさつを行い、「東日本大震災現場での被災地住民の命を守る公務員労働者の頑張りが、あらためて公務労働の大切さを見直すきっかけになっている」、「社保庁闘争も国民の年金権や働く権利を守るたたかいであり、引き続き支援していきたい」と激励しました。

また、愛媛弁護団の水口晃弁護士が、今年2月27日、28日に人事院本院で開かれた追加の証人尋問で明らかになったことや、全国弁護団会議で協議されている状況などについて報告し、JALの不当判決に見られるような裁判の現状では、人事院で勝利判定を勝ちとることがますます重要になっていると強調しました。

今総会には全厚生闘争団の北久保和夫事務局長も参加し、全国のとりのくみの状況や裁判闘争の状況などについて報告しました。

総会では支援共闘の立川和子事務局長が、これまでの活動の到達点と2011年度活動経過報告、2012年度活動計画案を提案し、児島文彦事務局長が2011年度会計報告、2012年度予算案を提案しました。支援共闘会議の事務局長について、立川さんから全通信の石川敬蔵さんに改選する旨の提案があり、質疑、意見交換、連帯発言の後、全議案が拍手によって承認されました。



質疑では、全厚生愛媛県支部OBから、分限免職処分や処分撤回のたたかいに対する自治労国費評議会の対応について質問があり、全厚生闘争団の北久保事務局長が推測と断わりつつ、自治労国費評の労働組合とは思えない不誠実な対応について丁寧

に説明しました。また、フロアからの連帯発言では、社保庁の分限免職強行から3ヵ月後に西条市の旧周桑病院でおこなわれた分限免職に対する取消裁判とJALの不当解雇撤回裁判の当事者、及び、香川の「綾さんを励ます会」事務局長を担当している森芳清さんが、それぞれの不当解雇撤回のたたかいかや裁判の状況報告と「ともにたたかっていく」との力強い発言がありました。

最後に、愛媛の分限免職当事者である森本和則さん（写真中央）、出原隆さん（右）、児



島文彦さん（左）が、これまでの支援に対するお礼とこれからのたたかいへの決意を述べ、支援共闘会議の高曲洋副議長のあいさつと団結ガンバローで閉会しました。

（文責：愛媛闘争団長 児島文彦）

事務局

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都地下

京都国公気付 ☎:075-801-7875 FAX:075-801-7876（共に京都国公）

[mail:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp](mailto:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp)（全厚生闘争団メールアドレス）

http://www.geocities.jp/zks_sasaerukai/index.html（全厚生闘争団を支える会ホームページ）